

2025年度 教育活動等に関する学校評価書

社会福祉法人愛の園福祉会
幼保連携型認定こども園
幕張海浜こども園

1. 教育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解をもって、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

<基本方針>

- 心の清い正直な人間（良心教育）
- 心の豊かな明るい人間（情操教育）
- からだの丈夫な強い人間（健康教育）
- 動作の機敏な人間（安全教育）

2. 本年度の重点課題

1. 前年度実施した学校評価における課題について取り組む。
（評価項目：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9）
2. 保育者の資質向上を高めるための話し合いを行ない保育に繋げる。
（評価項目：1. 2. 3. 4. 6. 7. 8）
3. 避難訓練や日々の保育と通して事故を未然に防ぐ危機予測・回避能力の向上を図る。
（評価項目：8. 9）

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（※評価は、S(十分に成果があった)・A(成果があった)・B(少し成果があった)・C(成果がなかった)・E（取り組みが行われていない）で表している。）

評価項目	具体的な取り組み		自己評価		学校関係者評価委員	
			評価結果	こども園としての反省と改善策	評価結果	意見
教育保育方針	1	法人基本理念を日々の保育とつなげ、共通の意識、理解に努め、保育実践に繋げる。 重点課題：1、2	B	法人基本理念の唱和や会議での意識付けは行ってきたが、理念に基づいた具体的な保育実践への結びつきに個人差が生じた。各職員が理念を「自分事」として捉え、自らの保育実践が理念にどう繋がっているか、振り返る時間を設け、組織全体の共通認識を深めていく。	A	会議冒頭での理念唱和などの取り組みが職員に浸透している点は高く評価できる。理念の共有をさらに深める手法として、AIを活用し理念の解釈を広げたり、職員一人ひとりに合わせて理解を深めようとする試みも有効ではないかと考える。また、大規模な会議のみならずクラス会議等の小規模な場においても現場の意見を丁寧に汲み取った活発な意見交換が展開されている点も高く評価できる。
	2	年齢ごとの成長・発達を促すため、日々の保育に対する振り返りや課題共有を日常的に行い、クラス担任間の協同意識を高める。 重点課題：1、2、3	A	ミーティングやクラス会議など、日常的な振り返りの場は定着した。クラス会議や全体会議では若手職員の気付きも共有しながら、意見交換や意思決定も以前より行なえる雰囲気となり、担任間の共同意識と課題共有が深まっている。今後はクラスリーダーが中心となり会議等を進めていける体制作りを行っていく。	A	
特色ある保育の展開	3	発達支援事業所の連携を継続し、気になる子への支援だけでなく「すべての子どもたち」が安心して過ごせる環境設定と関わり方を深める。 重点課題：1、2、3 資料：1	A	こども発達支援事業所「エール幕張海浜」との連携により、気になる子の様子や支援方法をすぐに共有・相談を行ってきた。また、給食室とも密に連携し、子どもの特性に合わせた細やかな食の配慮も適切に実施することが出来た。 エール幕張海浜の支援内容が外から見えにくいため、職員が短時間の見学や体験をするなど支援のコツをクラスでも共有し、職員もこどもも安心できる環境を行っていく。	A	発達支援事業所「エール」との連携により、保育と療育の両面から支援を受けられる体制はこどもにとって良い環境である。日々の保育の中で子どもたち一人ひとりに寄り添った配慮を続けて欲しい。
保育環境の充実	4	乳児：「安心できる生活環境」を土台としながら子どもたちの成長を促す環境構成を考える。 幼児：子どもが自ら好きな遊びを選択し、遊び込めるコーナー作りを強化する。 重点課題：1、2、3	B	子どもが安心して好きな遊びを選べる環境づくりを行い、個々の小さな変化から必要な玩具の設定を行った。今後の課題として、コーナー作りを定期的に行なえるよう会議の議題に取り入れ、クラスを超えた意見交換などを行い、環境を整えていく。	B	環境構成については絵本の入れ替えなど職員の細やかな配慮を継続することは子どもの育ちにとって極めて重要である。一度に全てを変えるのではなく少しずつ変化させていくことが、子どもの新鮮な反応を引き出し、同時に職員の業務負担軽減にもつながると感じる。

保護者との連携	5	<p>子どもの様子や成長の共有を図る為、SNS等を活用しながら情報発信を継続しつつ、送迎時の対面での会話や行事を通して保護者とのコミュニケーションを図っていく。</p> <p>重点課題：1 資料：2</p>	A	<p>日頃からSNS等を活用しながら保育の発信を行い、送迎での会話や連絡帳を通して保護者とのコミュニケーションを図ってきた。また、行事を通して子どもの成長や普段の保育の様子を保護者が体験出来る場を増やすことが出来た。SNSについては継続的な発信が行えるよう作成の効率化を図り、持続可能な共有方法を考えていく。</p>	A	<p>今年度実施された「親子で遊ぼう」は保護者との新たな連携のあり方を示す取り組みとして評価出来る。また、参加できない保護者への日程調整や個別対応等の細やかな配慮も行き届いていると感じる。SNS発信については職員の業務負担を軽減する為AIを活用してコメント作成を効率化・簡潔化していく等の取り組みが必要である。</p>
保育者の資質向上	6	<p>会議や振り返りの場において各職員が活発に意見を出し合いながら意見交換を行う。また、キリスト教保育の視点を取り入れた振り返りを行いながら保育実践や計画立てを行う。</p> <p>重点課題：1、2、3</p>	B	<p>会議や振り返りの場において参加する職員が積極的に意見を出し合う事が出来た。キリスト教保育の視点については、冊子の読み合わせ、意見交換だけでなく、聖話やキリスト教教材に触れる機会を増やしていき日頃の保育や計画により深く繋げていけるよう理解を深めていく。</p>	B	<p>雇用形態や経験年数に関わらず意見を出せる現状は、組織として評価出来る。キリスト教保育の視点においても知識で終わらせるのではなく職員一人ひとりが日々の保育の中で自然と実践できることを期待します。また、栽培活動では活動を通じて植物の成長過程を観察する中で子どもたちの探究心や深い学びへと繋げていく関わりについて、高く評価出来る。</p>
	7	<p>保育者と栄養士が一体となり、子どもたちが食に興味関心を持てるような計画を実施する。</p> <p>重点課題：1、2、3 資料：3</p>	A	<p>野菜の栽培、収穫からクッキング等の、食育活動を計画的に行った。給食会議のあり方を見直し、栄養士と保育者が意見交換できる場を設けた事で、食事の様子や食の安全に対する意識が持てるようになってきた。今後は栽培からクッキングの活動までを初期段階から計画し、子どもの期待感を高めていく。</p>	A	
危機管理	8	<p>事故を未然に防ぐ危機予測・回避能力の向上を図る。</p> <p>重点課題：1、2、3</p>	B	<p>見守りカメラを活用した、再発防止に向けての検証、周知を行ってきた事で昨年度より、事故件数は減少傾向にある。園内研修については、定期的な実施を目指しながら過去の事例を自分たちのクラスに置き換えてシミュレーションする実践的な研修を強化する必要がある。</p>	B	<p>安全管理と研修の高度化については、見守りカメラの映像やシミュレーション動画などの視覚的ツールを研修に用いることで、より深い共感と研修効果が得られると考える。避難訓練のシナリオ作成においても、AIを活用し職員の負担軽減と意見交換の活性化を図るべきである。また、予告なしの訓練の重要性に加え、保育室の写真を用いた危険予知トレーニングが有効であると捉えるとともに1年間の事故報告をAIで分析し、その結果を次年度の事故予防に繋げていくなどの取り組みも検討していく必要がある。</p>
	9	<p>非常時を想定した実践と検証を繰り返す。職員一人ひとりが危険を予測し行動する。</p> <p>重点課題：1、3</p>	A	<p>避難訓練を様々な想定と内容で実施しながら、「実践」と「検証」を行ってきた。訓練後の振り返りや全体会議で共有が定着し、職員の意識向上に繋がっている。今後は、不審者対応（防犯）など地震・火災以外の訓練も充実させ、さらなる安全意識の向上を図る。</p>	A	

幕張海浜こども園 学校評価実施要綱

2018年9月1日 制定

(目的)

乳幼児の教育・保育活動その他施設運営について目標を設定し、その達成や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を図る。

(評価)

自己評価は、幕張海浜こども園の職員（保育教諭、栄養士、調理師、事務員、一時預り専任者等）によって行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取組みの状況について評価を行う。

学校評価関係者による評価は、幕張海浜こども園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の延長ほか、地域住民等が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

(評価時期)

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年1回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2011年／2016年／2021年

(報告)

学校評価の結果は、保護者および地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

(評価委員とその任期)

自己評価者

1	園長：千葉諭、副園長：東里紗、主幹保育教諭：遠藤逸希、副主幹保育教諭：藤井梨津子 栄養士：田崎萌乃 保育教諭：三橋結衣・田崎直子・永島礼菜
---	--

評価委員（2025年度）

		役 職	氏 名（敬称略）
1	幕張海浜こども園に在籍または卒園した園児保護者	卒園児保護者代表	松井龍行
2	地域関係者	社会福祉協議会幕張西地区部会 顧問	平野悦子
3	姉妹園	社会福祉法人愛の園福祉会 第2幕張海浜保育園園長	杉森未緒
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年間とし、再任を妨げない。また、任期途中で地域の役職が変更された場合は、後任者と相談の上、引き継ぎを決定する。